

コウモリとイタチ

枝にぶらさがり、昼寝をしていたコウモリがイタチに見つかり食われそうになりました。コウモリは必死になって、命乞いをしましたがイタチは「お前を助けるわけにはいかない、我々にとって、鷲や鷹をはじめ 全ての鳥が敵だから。」コウモリは「私は、鳥ではありません、ネズミです」と説明して助けてもらいました。

次の日、コウモリは、また別のイタチに捕まりましたので、昨日の様に必死で食べないように頼みましたが、イタチは「全てのネズミは憎くてたまらない」と言います。「いえ、私はネズミではありません、コウモリです。」といて再び命拾いしました。



二人の旅人とブラタナスの木

真夏の昼過ぎ、暑さのために疲れ果てた二人の旅人が大きなブラタナスの木陰にたどりつき着きました。しばらくは言葉もなく休んでいましたが、そのうち、一人が涼しげに枝を張る姿を見上げながら「この木は立派だが実が成らないから、人間のためにはならないね」と話しました。ブラタナスは「思はずな奴らだ、私のおかげで休んでいながら役にたたないとは」。



鳥と狐

肉やの店から、肉をぬすんできた鳥が木の枝に止まっていました。下を通りかかった狐がこれを見て、なんとかあの肉を、せしめようと考えて、「鳥さん いつ見てもお美しいですね。多分あなたが鳥の中の女王にふさわしいでしょう。お声の方が美しければ、もう女王さまに決定ですね。」と褒めたたえました。これを聞いた鳥は、この美しい声を、ぜひ聞かせてやろう、とくわえた肉の事を忘れて鳴きました。下にいた狐はその肉をつかむと、「鳥さんよ あなたに人並みの知恵があれば、本当の女王なんだがね。」と云いながら去っていきました。

